



魅力を 科学する

人間科学部心理学科長・教授
大久保 街亜

おおくぼ まちあ

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士（心理学）。2006年、専修大学入職。現在、人間科学部心理学科長、教授。認知心理学を専門とし、顔の魅力、信頼できる表情や動作、映画館での座席行動など日常の行動や認識を研究。主著として『認知心理学：地のアーキテクチャを探る』（有斐閣）、『伝えるための心理統計：効果量・信頼区間・検定力』（勤草書房）がある。格闘技にも精通し、ブラジリアン柔術、総合格闘技の数多くの大会で優勝、入賞を果たす。

「カッコいい!」「素敵!」「きれい!」

魅力的な人を見ると、声を出すかはともかく、このように思う人は多いでしょう。「いやあ、わたしは見た目なんかにはこだわらないよ」という人もいるかもしれませんが、でもそれは、多くの人と違う部分や様子に魅力を感じている場合がほとんどです。思っている以上に、人は見た目を重視します。

人は見た目で投票する

見た目が選挙結果を予測することをトドロフという研究者が実験で示しました。小選挙区制ですと、主要な候補は2人に絞られます。このような2人の候補者について、政策も人柄もまるで知らない別の選挙区に住む実験参加者に、純粹に見た目で「どちらが有能に見えるか?」を判断させました。すると、見た目の有能さに関する判断が実際の選挙結果とおよそ一致することがわかりました。見た目で有能に

見える人がたいてい当选していたのです。この結果は、多くの人が政策や能力を吟味せず、単純に見た目で判断し投票先を決めていること示しています。

私は、心理学科で認知心理学という科目を中心に担当しています。この見た目と選挙結果に関する研究のどこが心理学なのか不思議に思った方がいるかもしれません。心理学は、心を実証的に調べる分野です。心はあらゆる人間の行動に関わります。ですから、投票行動も、これから紹介する見た目も魅力的も、人間の立ち振る舞いのすべてが心理学の研究対象となります。

魅力の成分を数量化する

魅力は人生を決定づける要素です。見た目が魅力的な人は、そうでない人と比べ、人格、知能、運動能力と様々な面で高く評価されます。実際の生活でも、魅力的な人は自信を持ち、自己評価が高く、外向的で、



図：魅力が高く評定された画像から空間周波数成分を抽出し、それに基づいて再構築した男性（左）と女性（右）の顔

恋愛経験も豊富で、職業的にも成功していて、収入も高いのです。もちろん例外もありますが、概ねこの傾向にあることがデータから確認されています。

私は、人々が顔のどのような要素から魅力を感じるのか、画像の解析と魅力の判断を組み合わせることで明らかにしました。例えば、赤、青、緑の3つの色は、視覚世界における基本要素です。これを組み合わせるとあらゆる色を作り出せます。テレビやパソコンは、この原理で色を映し出しています。形や線についても似た側面があり、どのような形状も空間周波数という波や縞のようなもので表現することができます。速度の遅いインターネット回線を使っていると、ぼやけた画像が少しずつはっきりしてくるのを見たことがあるでしょう。これが空間周波数による記述の例です。jpegと呼ばれるインターネットでよく使われる画像形式では、低い周波数（太い縞、ぼやけた画像に対応）から高い周波数（細い縞、画像の細部に対応）までいくつかの周波数情報を組み合わせ、画像を表現します。人間の脳も、これと非常によく似た仕組みで目に見える世界を脳内に表現していることが分かっています。

私は、日本人42名とノルウェー人52名の大学生に様々な顔写真を見せ、魅力を評定してもらいました。そして、顔写真に画像解析を行いました。図は、魅力が高く評定された画像から空間周波数成分を抽出し、それに基づいて再構築した男女の顔です。どちらが男性か女性かは一目瞭然でしょう（ちなみに左が男性）。この違いは男性と女性の魅力には、全く違う空間周波数成分が関わっていることを示しています。男性の魅力は顔全体の造形、つまり、首や

顔の太さ、太っているか痩せているかにあたる成分が重要なのに対し、女性では、顔の詳細、例えば、目や鼻の形や配置が重要なことを示しています。この研究は論文として、インターネット上に公開されているので興味があったらご覧ください (<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0227513>)。

曖昧な心を科学で捉える

心理学では、魅力のように捉えどころのないように思える心の働きを、客観的な指標を操作しながら、人間の判断や行動を測定することで研究していきます。私は、今回紹介したような魅力の研究のように、日常生活で感じたり、考えたり、行動したりする様々な事柄について、科学的・実証的に調べています。私が取り組んでいる研究テーマは、顔の魅力だけでなく、映画館でどこに座るか、なぜ物忘れをするのか、どうやって他人を騙すかなど多岐にわたります。このような日常にある心の働きには、通説があったり、人それぞれにいろいろな思い込みがあったりします。例えば、魅力については、「あばたもえくぼ」、「タデ食う虫も好き好き」などのことわざがあります。このようなことわざにあるような通説や思い込みは正しいこともあれば間違っていることもあります。通説や思い込みに流されず、科学の手法で心を捉えることが私の研究の目的です。日常の心を科学し、新たな光を当て、正しく解釈をすることが、日々の豊かな生活に貢献すると私は信じています。それを目指し、私は研究を続けています。